PEP検定（Prompt Engineering Professional）

稟議用資料一式

社内奨励資格としての導入ご検討資料

生成AIを「知っている」から「業務で使える」へ。全国のテストセンターで随時受験できる、日本初のプロンプトエンジニアリング検定です。

日本プロンプトエンジニアリング協会
Japan Society of Prompt Engineering

2026年10月版

収録内容

1 導入の2つの方法（推奨資格への指定／団体受験） p.4

2 稟議書の記載例（そのまま使える文面） p.6

3 検定の概要 p.9

4 他資格との比較 p.12

5 受験者の実像：調査データ p.14

6 団体受験の料金と流れ（10名以上10%OFF・50名以上15%OFF） p.17

7 推奨資格にする：社内規程の記載文例 p.19

8 助成金の扱い p.21

このPDFは、そのまま稟議書に添付できます

この資料の使い方

このPDFは、そのまま稟議書に添付できます。まず**4ページ目**で導入の方法を選び、稟議書の本文は**6・7ページ目**の記載例の____を埋めてお使いください。正式な金額は、協会が発行する見積書でご確認いただけます。

団体名	一般社団法人 日本プロンプトエンジニアリング協会（2023年4月設立）
代表理事	黒柳 茂
検定監修	北海道大学大学院 情報科学研究院 川村秀憲 教授
適格請求書	登録番号 T2010905004464
お問い合わせ	info@prompt.or.jp ／ https://prompt.or.jp/contact

2026年10月版／数値は特記のない限り2026年9月14日時点の協会集計

導入の方法は2つあります。

推奨資格への指定そのものに費用はかかりません。受験料を補助するかどうかは、貴社の規程で決められます。対象者が決まっている場合は、団体受験の割引と一括請求をご利用いただけます。

	01　社内の推奨資格に指定する	02　団体受験でまとめて受ける
会社がすること	資格取得奨励規程に追加し、社内に告知する	対象者のリストを渡し、請求書で一括して支払う
受験のしかた	社員が各自で申し込み、受験する	協会から届く案内で、各自が会場を予約して受験する
費用	受験料の補助・合格時の支給・報奨金など、貴社の規程で決められる	10名以上 10%OFF／50名以上 15%OFF（17ページ）
協会が用意	社内規程の記載文例3種（19・20ページ）、社内告知文のテンプレート	受験案内の送付、受験状況と合否の一覧報告、請求書（インボイス対応）
向いている	まず制度に載せて、自発的な受験を後押ししたい	部署や新入社員など、対象を決めてまとめて受験してほしい

01と02は組み合わせることもできます。

推奨資格に指定して全社で受けられるようにしたうえで、
最初の対象部署や新入社員を団体受験にする形です。

セブン-イレブン・ジャパンも、全社員向けの資格支援制度と
新入社員カリキュラムの両方でPEP検定を採用しています
（2026年10月発表）。

01　推奨資格に指定する

全社で受けられる

02　団体受験にする

最初の対象部署
や
新入社員

稟議書の記載例

____の部分を貴社の内容に置き換えてお使いください。推奨資格への指定だけを申請する場合は、②と「4. 費用」を外してください。

件名	生成AI資格「PEP検定」の推奨資格への追加と団体受験の実施について
1. 目的	生成AIの全社活用を進めるにあたり、業務で生成AIを使えるかを社内共通の基準で確認し、部署・職種ごとの到達度を把握する。
2. 内容	①PEP検定（主催：一般社団法人 日本プロンプトエンジニアリング協会）を当社の推奨資格に加える。②第1期として、対象者が団体受験する。
3. 対象	____部門の社員　____名（第1期）
4. 費用	団体受験 1名あたり_____円（税込。10〜49名は9,900円、50名以上は9,350円）× ____名 ＝ _____円。請求書払い。金額は協会の見積書のとおり。

稟議書の記載例（つづき）

5. 期間　　____年____月～____年____月（対象者が各自でテストセンターを予約して受験）

6. 選定理由　　①用語の知識ではなく、プロンプトの設計・評価・リスク管理など業務での使い方を問う。
②全国340か所以上のテストセンターで随時受験でき、日程の調整が要らない。
③出題範囲が更新されている（2026年9月にAIエージェント領域を追加）。
④セブン-イレブン・ジャパンが全社員向けの資格支援制度に採用している（2026年10月発表）。

7. 効果の確認　　受験率と合否を協会からの結果報告で把握し、第2期の対象者と研修内容に反映する。

8. 添付　　PEP検定 稟議用資料一式（本資料）、協会の見積書

決裁者からよく聞かれること

難易度は？落ちたら？

合格基準は正答率70%。不合格でも再受験でき、受験料は同額です。
再受験費用を会社が持つかは規程で決められます（19・20ページ）。

他の資格ではだめか？

生成AIパスポート・G検定は知識を問う検定で、PEP検定は業務での使い方を問います。
両方を奨励資格に置く企業もあります（12・13ページ）。

受験者がまだ少ないのでは？

2025年4月開始の新しい検定です。
その分、出題範囲の更新が速く、すでに大手企業の全社制度に採用されています（13・16ページ）。

「使うスキル」を測る検定です

PEP検定は、プロンプトの設計・評価・業務への組み込みという「使うスキル」を測る検定です。用語や仕組みの知識を問う検定とは測っている対象が異なります。

正式名称	Prompt Engineering Professional 検定（PEP検定）
主催	一般社団法人 日本プロンプトエンジニアリング協会
監修	北海道大学大学院 情報科学研究院 川村秀憲 教授（人工知能研究）
出題	100問／60分／CBT方式（テストセンターのPCで受験）
合格基準	正答率70%以上
受験料	11,000円（税込）／1名。テキスト・講座の購入は必須ではない

全国のテストセンターで随時、日程は受験者が各自予約します

受験機会	全国のテストセンターで随時。日程は受験者が各自予約
結果	試験終了後にスコアを表示。合格者には希望により認定番号つきの認定証（英文）を発行
掲載	『日経トレンディ』2026年5月号「AI・IT資格 難易度マップ」
運営実績	2025年4月開始。登録者 2,119名／累計合格者 1,284名／法人メールでの登録企業 125社（2026年9月14日時点）

団体受験でできること

- ✓ 請求書でのお支払い（インボイス対応）
- ✓ 受験者リストのお預かりと、受験状況・合否一覧の報告
- ✓ 社内案内文テンプレート、社内規程の記載文例のご提供

出題範囲は、生成AIの基礎からAIエージェントまでの6領域です

1 生成AIとLLMの基礎

2 プロンプト設計の基本と技術

3 生成AIの実務での使い方

4 モデルのカスタマイズ手法

5 倫理・リスク管理・法律

6 AIエージェントとコンテキスト設計

2026年9月改定

色つきの領域：2026年9月改定

競合ではなく、測っている対象が違います

PEP検定の受験者に併願資格を聞くと、生成AIパスポート（49.2%）とG検定（16.9%）が最多でした※。

	PEP検定	生成AIパスポート	G検定
問うもの	プロンプト設計・評価・実務での使い方（スキル）	生成AIの基礎知識・リテラシー	AI／ディープラーニングの知識
主な対象	業務で生成AIを使う全職種	全社リテラシー教育	AI企画・技術寄り
受験方式	CBT・随時（全国のテストセンター）	指定期間	指定日
受験規模	登録 2,119名（2025年4月開始）	1回の受験者 32,877名（2026年8月試験）	累計受験 190,188名

※ 併願資格は申込時アンケート（2026年9月14日時点）。他資格の受験料・方式・規模は各主催団体の公表値（生成AIパスポート：生成AI活用普及協会、G検定：日本ディープラーニング協会 2026年第1回時点）。

「実務で使える人を可視化したい」ならPEP検定

	PEP検定	生成AIパスポート	G検定
受験料（税込）	11,000円	11,000円	13,200円
出題範囲の更新	継続的に更新（2026年9月に新章追加）	—	—
結果	即時スコア表示	後日	後日

使い分けの目安

「まず全社にリテラシーを」なら生成AIパスポート、
「実務で使える人を可視化したい」ならPEP検定。
両方を奨励資格に置く企業もあります。

受験者数について

PEP検定は2025年4月開始の新しい検定で、規模は他の2資格より小さくなります。その分、出題範囲の更新が速く（2026年9月にAIエージェント領域を追加）、セブン-イレブン・ジャパンの全社員向け資格支援制度にも採用されています。

※ 他資格の受験料・方式・規模は各主催団体の公表値（生成AIパスポート：生成AI活用普及協会、G検定：日本ディープラーニング協会 2026年第1回時点）。

2026年9月1〜14日の申込者の47.7%は、受験理由が「会社の推薦」

協会が保有する申込データ（n=1,943・2026年9月14日時点）から、実際の使われ方をまとめました。

47.7%

受験理由が「会社の推薦」

2026年9月1〜14日の申込者。開始直後の2025年4〜9月（半年間）は8.7%

34.2%

きっかけは「友人・同僚の紹介」

最大の流入経路。1人が受けると社内に広がる

95.7%

受験者は会社員

学生15名・公務員11名・主婦6名を除きすべて会社員

39.8%

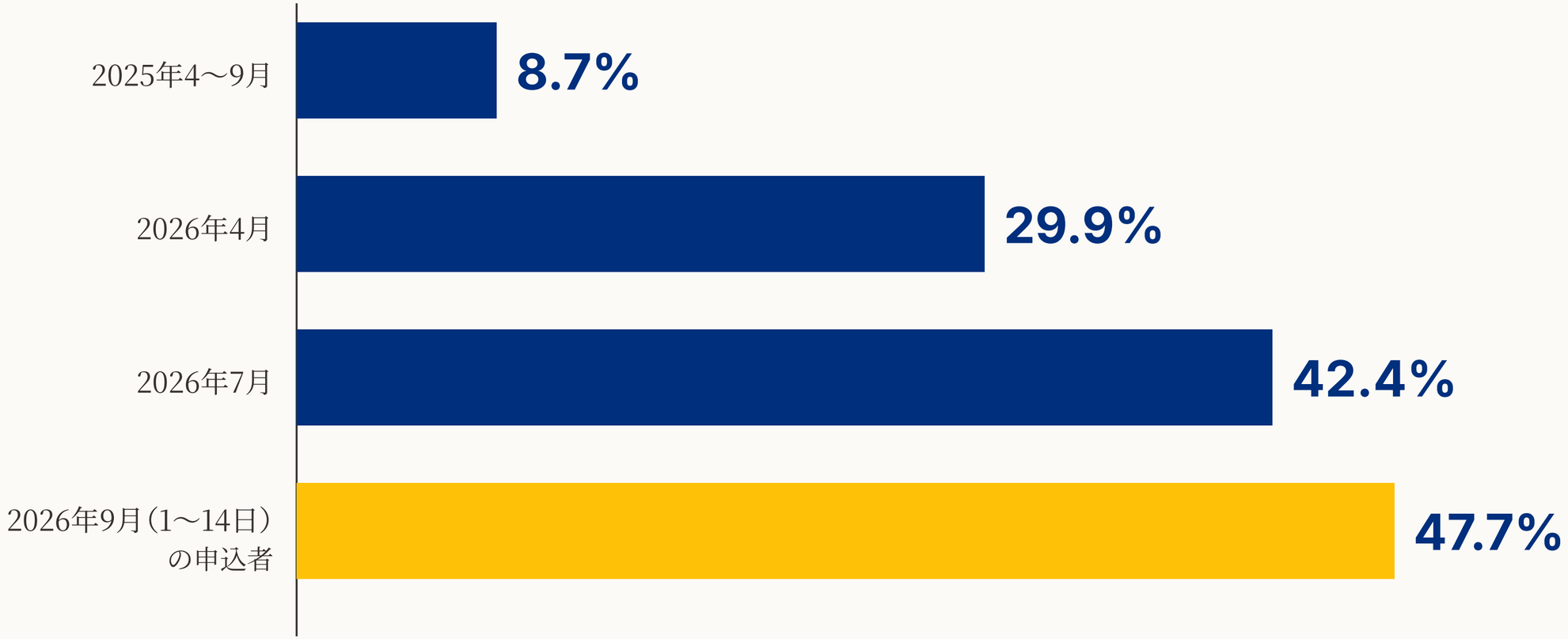
非IT業種の受験者

IT 60.2%／流通・小売 10.0%／サービス 9.6%／製造 4.6%／金融 2.6%

※ 協会が保有する申込データ（n=1,943・2026年9月14日時点）より。n=1,943は申込データ全体で、各期間の割合の母数はその期間の申込者です。

「会社の推薦」は8.7%から、2026年9月1〜14日の申込者で47.7%へ

受験理由「会社の推薦」の推移



※ 協会が保有する申込データ（n=1,943・2026年9月14日時点）より。n=1,943は申込データ全体で、各期間の割合の母数はその期間の申込者です。

導入企業の例：全社制度の採用から部門単位の導入まで

セブン-イレブン・ジャパン	全社員向け資格支援制度・新入社員カリキュラムに採用（2026年10月）。新入社員は約200名→枠500名、受験料は会社負担
大手通信キャリア	情報通信／管理部門から導入。申込122名（2026年4月〜）
技術者派遣大手	IT・人材／申込59名。申込者のほぼ全員が受験まで到達

※ セブン-イレブン・ジャパンは協会プレスリリース（2026年10月5日）と対談記事より。その他は申込データ（2026年9月14日時点）。社名は許諾を得た企業のみ実名。

団体受験なら、10名以上で10%OFF、50名以上で15%OFF

個人でのお申込み

11,000円

1名あたり（税込）

団体受験 10〜49名

10%OFF

1名あたり 9,900円（税込）

団体受験 50名以上

15%OFF

1名あたり 9,350円（税込）

人数の例	個人申込	団体受験	差額
10名	110,000円	**99,000円**	11,000円
50名	550,000円	**467,500円**	82,500円
100名	1,100,000円	**935,000円**	165,000円

※ 金額はすべて税込。団体料金は2026年10月時点。正式な金額は協会が発行する見積書でご確認ください。

お申込みから受験までの流れ



ご相談
対象人数・時期・請求先をお知らせ

見積書
協会から見積書を発行（1営業日以内）

発注・請求書
発注のご連絡後に請求書を発行。受験者リストをお預かり

受験
受験期間内に、各自がテストセンターを予約して受験

結果報告
受験状況・合否の一覧を協会からご報告

お支払い	請求書払い（銀行振込）。お支払い時期は貴社のお支払い条件に合わせてご相談ください。適格請求書発行事業者 登録番号 T2010905004464
受験者リストの項目	氏名／メールアドレス／所属部署（任意）。受験期間、期間内に受験しなかった場合の扱い、リストの受け渡し方法は、お申込み時にご案内します。
受験者の個人情報	お預かりした受験者リストは、受験の手配と結果のご報告のために使用します。提供先（試験の運営会社）や保管期間など取扱いの詳細は、お申込み時に書面でご案内します（プライバシーポリシー https://prompt.or.jp/privacy-policy）。

推奨資格にする：社内規程の記載文例 3種（Aは19ページ、B・Cは20ページ）

資格取得奨励規程や教育研修規程に追記する際の文例です。団体受験で会社が一括して支払う場合はA、社員の個人申込を補助する場合はBかCが合います。

A　受験料会社負担型（団体受験に対応）

第〇条（奨励資格）　会社は、次の資格の取得を奨励し、受験料の全額を負担する。受験料は、会社が試験の主催団体に直接支払うことができる。

（〇）PEP検定（Prompt Engineering Professional 検定／一般社団法人 日本プロンプトエンジニアリング協会）

2　補助は初回受験に限る。ただし所属長が認めた場合はこの限りでない。

3　受験者は受験後速やかに、受験結果（合格者は認定証の写しを含む）を人事部に提出する。

推奨資格にする：社内規程の記載文例 3種（Aは19ページ、B・Cは20ページ）

B　合格時補助型

第〇条（資格取得補助）　従業員が次の資格に合格したときは、申請により受験料相当額（11,000円）を支給する。

（〇）PEP検定（一般社団法人
日本プロンプトエンジニアリング協会）

2　申請は合格日から3か月以内に、合格を証する書面の写しを添えて行う。

C　報奨金型

第〇条（資格取得報奨金）　会社は、業務に関連する次の資格を取得した従業員に対し、報奨金を支給する。

（〇）PEP検定　報奨金 〇〇,〇〇〇円

2　報奨金は取得後最初の給与支給日に支給する。

同一資格への支給は1回限りとする。

※ 文例は一般的な規程の書式に沿った参考例です。労務・税務上の取扱い（報奨金の課税等）は貴社の顧問専門家にご確認ください。

助成金の扱い：研修講座と組み合わせる形でご案内します

生成AI関連の人材育成は、厚生労働省の人材開発支援助成金（事業展開等リスキリング支援コース等）の対象となる場合があります。

対象になり得るもの	助成金の要件を満たす研修講座（OFF-JT）の経費・賃金。協会では、要件に沿った研修講座を準備しています（提供開始時期はお問い合わせください）
検定受験料の扱い	受験料単体は助成の対象にならない場合があります。研修講座と組み合わせる形でご案内します
申請主体	貴社（事業主）。協会の研修講座を利用する場合、申請に必要な資料（カリキュラム等）の準備についてご相談に応じます
手続きの順序	計画届の提出 → 訓練の実施 → 支給申請。訓練開始前の計画届が必要で、開始後の申請はできません
最新情報	支給要件・助成率は年度・公募回ごとに変わります。厚生労働省の最新の支給要領でご確認ください

ご検討の際は　団体受験のご相談時に「助成金の活用を検討」とお知らせください。研修講座の内容と受験を組み合わせたご提案をお送りします。

※ 本資料は助成金の支給を保証するものではありません。適用可否は貴社の状況および所轄労働局の判断によります。